



強固な保守地盤を打ち砕くたたかい

自治労徳島県本部 三好市職労連書記長

宮内 大志

三好市議会議員補欠選挙は、同市議会議員であった竹内義了組織内議員の県議転身に伴うもので、第27回参議院選挙と同日で行われました。同補選では、労働組合から新たな組織内候補として細田ひろきを擁立し、対抗馬として自民が全面的に支援した保守候補者が出馬、激戦が展開されました。今回、参院選は、全国的な自民離れの流れがありながらも、三好市では保守に及ばない結果でしたが、市議補選では約3000票の大差をつける7231票で労働者代表の1議席を守ることができました。ではなぜ勝利できたのか。三好市では7月の参院選と同日で市

長選挙と市議補選のトリプル選挙になる見通しのなか、徳島・高知は選挙区が合区であり、立候補予定者がすべて高知出身のため投票率が低くなると想定、市長選挙も無投票の空気感のなかでの市議補選でした。対立候補は自民党が全面支援する女性候補者で過去に立候補した実績もありました。もともと保守地盤の強い地域で、さらに市民は市議補選があることさえ知らないなか、新人候補として闘うことになりましたので、早急に後援会を立ち上げリーフレットと活動通信を作成して、まずは知ってもらうことを重点に取り組みました。

労組での取り組みとしては、4月に組合員宅訪問を実施。執行委員が勤務終了後に候補者本人を連れて組合員宅を訪問し、組合員やその家族に後援会加入を呼びかけました。三好市職労連は5年前に会計年度任用職員を組織化（現在の加入率は約50%）しており、細田さんは当時の執行委員長として組織化に深く関わっており、この間労働運動を牽引してきた実績からも職場全体としてしっかり支えていこうという気運が高まっていたと総括できます。

一方で、自治労総体としては組合員の政治闘争離れが進んでいる状況があります。三好市も各級選挙闘争、特に



予定より遅れた開票速報の結果に歓喜する事務所

国政における組織内議員への得票数が組合員数に届いていない現状があり、投票行動に結びついていないことが課題となっています。この間の総括として「まさか自民党候補には投票しないだろう」「組織としては自主投票だが組合員自身が判断したらわかるだろう」

という組合幹部の想定が組合員に伝わらないことは選挙結果からも明らかでした。組合員にきちんと伝えるため、2月に職場集会を開催し、全ての組合員に提起。3月の臨時大会で闘う方針を確認するとともに、7月に参議院選挙も含めた選挙闘争勝利に向けた全組合集会を開催し「組織内立候補予定者の必勝」と「組合員、家族、友人知人が必ず投票に行き、投票する」ことを全体で確認してきました。

後援会活動としては4月から後援会加入の呼びかけ、5月からの統一行動に多くの組合員が参加し、さらに県本部各単組から700人を超える仲間支援をいただき、三好市内全域における統一行動を展開。リーフレット及び活動通信を2号発行し、早い段階で市内全域に配布できたことが大きな力となりました。統一行動には候補者本人も意識的に顔を出し、直近の情勢や行動提起、送り出しなど参加者への丁寧

な関わりを持つことで、お互いの頑張りが見えることにつながり、ひいては個々の信頼関係の深まりからの支持拡大につながったと考えます。さらに家族や親せき会、同級生で作る支援会、地元の自治会をはじめとした支援者など、多くの支援の輪が広がりました。この選挙闘争では、統一行動だけでは支持が広がらなかった結果、約3000票という大差での勝利につながりました。この選挙闘争では、統一行動だけでは支持が広がれないとの議論から、早い時期に個々訪問を提起し、先手を打って細田の名前を上げ、統一行動でも、四国各地から新社会党を含め多くの仲間の協力が大きな力となりました。来年4月には三好市議会議員の本選が予定されています。選挙闘争で明らかとなった成果と課題を持ち寄り、早急な闘争体制の確立と労働運動の強化の方針を打ち出していけるよう、討論を重ねていきたいと思っています。

(みやうち だいし)